

委員会のインターネット中継に関する課題

開かれた議会・広報の充実

目的	内容	課題
<ul style="list-style-type: none"> 市民の興味をひく、議員の顔の見える中継 	<ul style="list-style-type: none"> 追尾式や切替スイッチ使用 ズームで発言者を特定 議員名等のテロップ付 	<ul style="list-style-type: none"> 多額の費用がかかる 一委員会当たりの職員数増 工事が必要 追尾式の場合、マイクの入替え
<ul style="list-style-type: none"> 会議録に現れない発言ニュアンスの確認 会議録の代替 	<ul style="list-style-type: none"> 定点で撮影 議員名等のテロップなし ズームなし 	<ul style="list-style-type: none"> 職員負担が不明（編集及びアップ作業等） 三脚を使用したカメラ設置とすれば、傍聴者等への配慮が必要

[共通課題]

- 誰が発言しているかわかるように、委員及び答弁者は挙手の上、委員長に指名を受けてから発言する。
- 委員長は、委員及び答弁者名を明確に指名する。
- 委員・答弁者は、発言するときにマイクのスイッチを入れ、発言終了後に切る。
- マイクがない理事者答弁の対応。
- 不規則発言（特に生中継の場合）への対応。

[その他]

- 生中継又は録画中継の選択（生中継の場合、通信環境の整備が必要）。
生中継：現在の傍聴者の状況を打破して複合効果で傍聴者を増やす可能性がある。
録画：傍聴の都合がつかないときに、いつでも委員会を見ることができるとのメリットがある。
- 議会ホームページに掲載するか、動画サイト(You Tube等)を活用するか。

委員会インターネット中継の必要性
どの方法で中継し、課題をクリアしていくか